

B-25 繊維製品の清浄性における細菌学的研究(衣類の細菌学的清浄性の
福岡女子大家政 平松園江 ○合谷美智子 山口大教育 上村元子. 検討)

目的 布の清浄さを見る一つの目安として付着菌数で示す方法がとられ、その実際的方法としては種々試みられている。まず布より液中に放出される状態を調べる必要があると考えたので振盪の方法、時間、回数その他について2, 3の検討を試みたので報告する。

方法 供試料. 菌; Proteus OX19, 布; さうし 4×4 cm, 抽出液; $\frac{1}{10}$, pH 7.2 ± 0.2 燐酸緩衝液, 培地; 普通寒天, 尿素培地。菌液(1ユーゼを2mlの滅菌蒸留水に浮遊) 0.1 mlを滴下した布を1; 100の燐酸緩衝液中に浸漬したもの, 恒温振盪機10分, フラフシユミキサーの操作を加えたものとし、それぞれにつき時間と液をかえ回数を変化させた。液中に抽出された菌は寒天培地に培養し、コロニーを数え、あわせて尿素培地中のpH変化を測定した。また浸漬布も尿素培地中で培養し、布に残存している菌の確認を行った。

結果 Proteus 菌1ユーゼは採取者により 4×10^7 程度の差があり、したがって布に付着した菌量から流出量は率で現わす必要がある。振盪機の5~30分間の時間により、液中に流出してくる菌は布付着菌の約 $\frac{1}{5}$ で、振盪時間の段階には顕著な差がなかった。振盪10分で布を引き上げ、新たに液に浸漬させ、この操作を10回くり返した場合、1回目では付着菌の約 $\frac{1}{5}$ が液に流出した。10回までくり返して2菌は布に残存している。フラフシユミキサー60秒攪拌による菌の流出は $\frac{1}{2}$ 程度で、浸漬のみの場合は30分で約 $\frac{1}{5}$ が出るのみで、機械作用の効果がみられた。